

2024年度

科目名称	児童文学
授業コード	AI103
英語名称	Literature for Children
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	前嶋 深雪
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	○児童文学はそのジャンルに絵本を含み、子どもの言語の発達に絵本の読み聞かせは欠かせないツールとなっている。絵本は音声言語を中心に子どもに言葉を届ける言語形式であり、学齢以前から学齢期にかけて、絵本及び児童文学書に触れ合うことで子どもの読む力が育まれると同時に、書記言語を含めた言語能力が獲得されていく。保育・教育者として、子どもの発達段階に応じた児童文学作品を選ぶ視点や子どもに児童文学作品に興味を持たせる作品紹介ができる表現の力を獲得することは必要であり、これらの学びを中心に展開する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	○小学校での校内研究の講師・学校及び高等学校の国語科教諭としての経験と、若者を対象としたコミュニケーション講座講師の経験で獲得した国語（日本語）の能力を高める手法を活用する。言語知識及び言語運用の観点から、絵本をはじめとする児童文学作品について、言語分析やテキスト分析を通して、読み聞かせなどの表現も含めた学びのポイントを提示していく。
到達目標	○保育・教育者として、子どもが触れる児童文学作品について理解し、子どもの発達段階に応じた作品を選ぶ力を得ることを目的として、物語の構造分析の視点を得ること、子どもが興味を持つポイント及び子どもにとっての言語の学びとなるポイントを見つける視点を持つこと、読み聞かせや文学作品の紹介の仕方などの表現力を高めることを目標とする。 ○学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する位置づけは以下のとおり。 【知識・技能】児童文学に関する学術的知識を理解し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。 【使命感・思考力】言語能力やコミュニケーションに関する児童文学の知識など保育・養育の場で必要となる技能や知見を身に付け、協働しながら、取り組むことができる。 【人間力・指導力】言葉の獲得を主とした発達や育ちを基に指導計画を作成し、省察・改善することができる。 【創造的な保育や教育】絵本に関する知識や言語能力の理解を踏まえて、未来を担う子どものための新たな教育・保育方法を模索することができる。
計画・内容	第1回 イン트로ダクション 児童文学とは？ 第2回 絵本の構造分析 言語的な視点（言葉の特徴） 第3回 絵本の構造分析 ストーリー分析（子どもと大人の視点の違い） 第4回 絵本の構造分析 音声言語としての絵本（読み聞かせのために）/発達段階に応じた絵本を選ぶ 第5回 課題実践 絵本の構造分析 第6回 課題実践 絵本の価値と紹介文 第7回 課題発表

2024年度

<p>計画・内容</p>	<p>絵本について相互に学び合う 第8回 子どもの本の歴史 世界の児童文学の歴史と作品 第9回 子どもの本の歴史 日本の児童文学の歴史と作品 第10回 児童文学作品テキスト分析 作品の構造分析 第11回 児童文学作品テキスト分析 作者と時代 第12回 児童文学作品テキスト分析 作品のテーマと価値 第13回 チーム課題実践 作品の解釈と表現の考察 第14回 チーム課題実践 時代性と価値の考察 第15回 課題発表(チーム) 児童文学作品について相互に学び合う/最終レポート課題(記述)の確認</p>
<p>授業の進め方</p>	<p>○チームごとに、各時間のテーマに沿った児童文学に関する課題を考えて仕上げ、発表し合う時間を多く持つ。いろいろな意見や解釈を伝え合いながら、共有する機会を設け、協働の体験と発表の体験を重ねながら、児童文学についての学びを深める授業を展開していく。また、各回の授業の最後に、ふりかえりのコメントシートを提出する。</p>
<p>能動的な学びの実施</p>	<p>○学生どうして考えの交流を行い、一つの課題について合意形成・課題解決をする時間を持つ(チームで話し合うアクティブラーニングの形式を導入)。また、授業ごとにコメントシートに「新しい発見」を記入し、第15回授業時にポートフォリオとしてふりかえり、学修の深まりを実感できるようにする。</p>
<p>授業時間外の学修</p>	<p>○授業内では文学作品や資料を読みこなす時間が不足するため、授業で扱った作品や資料については、授業終了後に何度も読み、理解しておくこと(各回約2時間相当)。 ○絵本や児童文学作品を図書館で借りたり、購入したりなどして、授業を開講する春学期中に10冊以上は読むこと(各回2時間相当)。 15回で約60時間相当の予習及び復習の時間を持つこと</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>○教科書：特になし(授業時に資料を配付する) ○参考書：川端有子『児童文学の教科書』玉川大学出版部(2013年) ひこ田中『大人のための児童文学講座』徳間書店(2005年) リリアン・H・スミス(石井桃子ほか訳)『児童文学論』岩波書店(2015年)</p>
<p>成績評価方法と基準</p>	<p>○授業内のチームでの話し合いへの参加とコメントシート30%、課題発表40%、最終レポート(記述)30%により総合的に評価する。</p>
<p>課題等に対するフィードバック</p>	<p>○コメントシートでのふりかえりを授業の最初に紹介し、疑問や質問から考えを深めていく時間を持つ。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>○CampusSquareを参照</p>
<p>留意事項</p>	<p>○考えを応答する時間や思考のアウトプットの多い授業となるため、体調やぐあいが悪いと十分な学びができなくなるので、健康に留意して授業に臨むこと。</p>
<p>非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」</p>	<p>授業の進め方：Zoomによるオンライン授業にて実施する。 成績評価方法と基準：Zoom受講及びコメントシート提出30%と課題提出40%、最終レポート(記述)30%で評価する。</p>